

埼玉県・クイーンズランド州スカラシップを通して

恩田 恋羽

この度、埼玉県親善大使としてオーストラリアクイーンズランド州にある Yeppoon State High School（以下「YSHS」と表記）に派遣していただきました、恩田恋羽です。はじめに、このような機会を与えてくださったこと、このプログラムに携わったすべての方々と数々の出会いにこの場をお借りして感謝申し上げます。約二週間、私が学び、体験したかけがえのない出来事について、これを読んだ多くの方々に知っていただくと幸いです。

・Yeppoon について

Yeppoon はオーストラリアのクイーンズランド州にある海岸沿いの暖かい気候の町です。私たちが滞在した7月～8月は冬にあたりますが、朝晩は冷えるものの、昼間は半袖で過ごすことができるほどでした。

私が Yeppoon で過ごして印象的だったのは、地域の人々がとてもフレンドリーだったことです。お店に入ると店員さんとの簡単な挨拶を必ずしたり、放課後帰宅していると、日本語を勉強しているという



う、St Ursula's College という女子校の生徒が話しかけてくれたりしました。さらに、私たちが Yeppoon に到着したときには、YSHS の生徒の1人が私たちのためにフェアリーブレッドというオーストラリアで定番のおやつを作ってくれるなど、とても親切でした。

・YSHS での生活

月曜日から金曜日までは、例外の予定を除いては YSHS に通学していました。日本の高校とは授業時間や授業数も違い、70分の授業が4限まであり2限と3限、3限と4限の間にそれぞれ40分の休み時間がありました。先生方や生徒の方々のお気遣いもあり、問題なく授業を受けることができました。また、日本語クラスもあるため日本語を知っている生徒も多く、たくさん話しかけていただきました。

学校生活において私が特に印象に残ったのは、school musical です。（下の写真）



学年を問わず、協力して一つの物語を作るというもので、日本でいう文化祭のような行事なのではないかと思います。私は、ほかの親善大使とリハーサルを1回、ドイツ人のホストブラザーとイタリア人の留学生と一緒に、夜の本番のものを1回、計2回見ることができました。内容はとてもコミカルで、会場で大きな笑いが起きることもしばしばありました。また、音楽も生徒の生の演奏で迫力がありました。後に、出演していた生徒に話を聞くと、5か月前から練習していたそうです。1回目はなかなか理解するのが難しかったのですが、2回目に見たときは意味も分かるようになってきて、楽しく鑑賞することができました。

・親善大使として

埼玉県親善大使としては、パワーポイントで作成したプレゼンテーションで川越市や私の住んでいる市のことを紹介しました。私は部活動で、川越の名所を外国人観光客にガイドをしているため、その経験を生かして伝えました。とても緊張しましたが、多くの方に興味を持ってもらうことができたのではないかと思います。学校の休み時間には、留学生ルームというところで、オーストラリア人、ドイツ人、イタリア人の友達と、お互いの国を紹介しあいました。日本での当たり前が、ほかの国では当たり前ではなくなることを再認識することができ、異文化への理解も深めることができました。また、ホームステイ先では、うどんを作りました。お箸をお土産に持って行ったのですが、ファミリーがお箸に

挑戦してくれて、嬉しかったのを覚えています。乾麺を持って行ったため、細めの麺にはなりましたが、好評でした。

・ホームステイについて

私のホームステイファミリーは、ファザー、マザー、そして先ほど登場したドイツ人留学生の男の子で、冗談と笑顔の絶えない素敵な家族でした。家族団らんの時間では、日本、ドイツ、オーストラリアの文化や戦争について話したり、オーストラリアの歴史について教えてもらったりしました。私にとって、他の国の視点で歴史を考えることが初めてだったので、とてもいい経験になりました。また、庭でキャンプファイヤーのようなものをしてマッシュマロを食べたり、リバーフェスティバルという地域のお祭りに連れていってもらったりしました。



本当にあたたかい方々で、我が子のように、妹のように接していただきました。お別れの日には、

「ささいなことでも連絡をして、いつでも帰ってきていいからね。私たちの子供のためにドアはいつでも開いているから。」

国籍も人種も関係なく、たくさんの愛を注いでくれた私の第二の家族です。

・まとめ

このプログラムを通して、私は本当に多くのことを学びました。時には自分の考えをうまく言葉にできなかったり、伝わらなかったりすることもありました。しかし、それらの経験は、私の人生において、かけがえのない宝物です。このような機会を設けてくださっ

たことに、改めて感謝申し上げます。

そして、次期奨学生になられる方々へ。2週間はあっという間に過ぎてしまいます。友達や家族との時間を大切に、思い切りオープンに楽しんでください。皆様のご健闘とご活躍をお祈り申し上げます。